

重点プロジェクト

兵庫区の将来像を緑の映える美しい大樹のイメージに・・・

兵庫区は古来より良港をもつ神戸の玄関口として栄え、戦災や震災といった困難を乗り越えながら、人々の営みが続いている歴史あるまちです。

まちを一本の大樹に例えるなら、兵庫区の現状は年輪を重ねた太い幹であり、もちろんその根幹には人々とそのつながりがあります。

これからのまちづくりは、兵庫区の将来像を緑の映える美しい大樹としてイメージしながら、長い年月によって育まれた幹から、未来へと広がる「枝」や「葉」を大切に育てていく作業です。

まずは、幹に蓄えられた先人の知恵や何ものにも代えがたい経験というエネルギーを活用し、様々なテーマを横断した波及効果が期待できる、未来へかけるプロジェクトとして2つのプロジェクトに取り組みます。



■兵庫区安全・安心プロジェクト

「防災」と「防犯」は生活に最も身近な課題のひとつです。兵庫区を訪れる人も含めて、兵庫区内のすべての人が、目に見えるかたちで安全で安心だと感じることができるまちをめざします。

(プロジェクトの視点)

- 最新の情報を掲載した広報紙等の発行やまちなかの多言語によるサインの設置、個人情報端末を利用した各種情報の兵庫区エリア限定の発信など、わかりやすい防災・防犯情報の提供
- 防災・防犯に関する各種地域団体の横断的な情報共有・公開の場としての「防災・防犯ラボ」づくりなど、横断的な防災・防犯体制
- 災害などは他人事ではなく、誰がどこにいても、いざという時にすばやく行動できる、若者をはじめとする幅広い人々の参加の環境づくり

■兵庫区中心核再生プロジェクト

兵庫区庁舎の建替を契機に、行政施設や市場・商店街などの商業施設、公園等の区民の憩いの場が集積し、公共交通が充実した「兵庫区中心核」がより「にぎわいのある」「住みよい」と感じることができるまちをめざすことで、兵庫区全体の活性化を推進します。

(プロジェクトの視点)

- 情報発信やにぎわいの拠点としての庁舎機能整備
- 湊川公園の整備、鉄道駅からのアクセス改良、周辺商店街への動線改良・美装化などの庁舎周辺整備
- 区を中心核にふさわしい魅力ある健全な生活環境整備に向けた区民の意識啓発
- 下町らしい市場・商店街のよさが残る「湊川かいわい」における若者からお年寄りまで買い物しやすい、暮らしやすい環境づくり
- 「湊川かいわい」や「新開地地区」を、下町・芸能・文化・食などを“愉しみ”“感じられる”まちとしての個性を伸ばしていく活性化



「防災力」「防犯力」を身につけ、ひとりひとりが輝く安全なまちへ

日頃から防災力・防犯力が高いまち——

1995年の阪神・淡路大震災。兵庫区も甚大な被害を受け、数多くの尊い命と財産が奪われました。兵庫区内には、現在も住宅が密集した地域が残っていて、北部の一部地域は、大火の発生や、避難や消火活動が難しいとされる「密集市街地再生優先地区」に指定されています。また、近年、犯罪の手口が巧妙化・凶悪化していることから、区民の防犯への意識が高まっています。

未曾有の震災を乗り越え、培われた「きずなと支えあう心」「やさしさ思いやり」の大切さを、今あらためて次世代へ伝えていくべき時を迎えています。「防災と防犯」は、わたしたちの生活に最も身近で重要な課題のひとつ。日頃から災害や犯罪に対する意識を高め、できることから実践することが大切です。

安全・安心 (まもる)



2. 防犯に向けた地域一丸のまちづくり

<地域における安全・安心の点検>

自分たちが暮らしているまちにどのような特徴があり、どのような問題があるのかを調べ、その情報をみんなで共有することが安全・安心なまちづくりの第一歩です。日頃から「見守り活動」を継続するとともに、住民や学校が一体となってまちを点検・確認するなど、安全・安心に関する取り組みをすすめます。

取組アイデア

- *全小学校区における地域安全マップの作成
- *地域一体となった取り組みによる日常の見守り活動の定着
- *犯罪の発生しにくい防犯環境(街灯・防犯カメラ等)の整備
- *自分の身は自分で守るための「防犯ウォッチ」の実施 など



地域安全マップづくり(夢野の丘小学校)



防犯ウォッチ(御崎児童館)

3. 地域力を高めて、安全・安心なまちへ

<人の命を守り、助けるしくみの稼働>

まずは自分の身は自分で守ることが基本です。そのうえで、地域住民・企業・行政が連携して安全・安心を強化するしくみづくりや「地域力」を高める取り組みをすすめます。

取組アイデア

- *「まちかど救急ステーション」を地域の特性に応じたより綿密かつバランスのよい配置
- *自主防災活動を通じた消防団、地域、事業所、学校の連携の強化
- *携帯電話等の個人情報端末を利用した防災情報伝達システムの充実 など



保育所防災フェア



防災ジュニアチーム(兵庫中学校)

1. 空き家や空き地、住宅密集地域の再生を



まち点検(兵庫区北西部まちづくり協議会)

<住宅密集地域の安全・安心の確保>

住宅が密集した地域では道路が狭く、救急車等の緊急車両の通行、災害時の避難などに課題があります。また、空き家や空き地が増加して治安上や景観上問題があるところも少なくありません。沿道や関係者のみなさんの合意形成を図りつつ、課題解決に向けた取り組みをすすめます。

取組アイデア

- *道路拡幅のための、地域住民の細街路道路中心線の確定作業の支援
- *空き家・空き地対策の推進(老朽家屋の除却、まちなか防災空地の整備等)
- *住宅防火の推進(火災警報器の設置、防火講習会・パトロールの実施等) など

一口メモ

「細街路道路中心線の確定作業」
幅4m未満の道路に接する敷地に建物を建築する場合、道路中心線から2m後退して建築する必要があります。沿道関係者が道路中心線を取り決めることにより、建替時に中心線後退を行い、道路空間を確保するための取り組み。

MY NEXT 5 YEARS



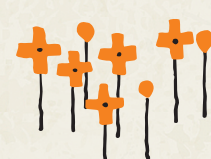
こどもたちの元気な挨拶や笑顔が嬉しいです。

東山子ども見守り隊 代表 藤野美美子さん

毎日、小学生の登下校時の見守りを始めて10年近くになります。十字路口になっていて見通しの悪い坂道の交差点などで見守り活動を行って

います。こどもたちが元気な声で挨拶してくれたり、名前を呼んでくれると嬉しいですね。時には相談に乗ったり、宿題を見てあげたりすることもある

んですよ(笑)。こどもの成長は早いですが、安全な学校生活のお手伝いできたらと思っています。





自然災害への備えに日頃から「危機管理」「防災意識」を

津波・土砂災害への対応力が高いまち——

南海トラフ巨大地震によって発生が予想されている津波による人的被害は、南部地域を中心に約4,000人という市内最大の試算。また、北部地域では土砂災害による被害が想定されるエリアが多く存在しています。さらに兵庫区は、高齢化率も約29%（※）と市内で三番目に高く、災害時要援護者も増加していることから、人と人が助け合って安全・安心を確保していく必要があります。

災害を100%未然に防ぐことは不可能でも、少しでも被害を少なくすることはできます。

さまざまな災害に備えて日頃から危機管理・防災意識をもち、いざという時の「対応力」を高めていきましょう。

※平成28年1月1日時点



安全・安心 (まもる)

2. 土砂災害に備えた実践的なまちづくり

<土砂災害対策>

特に土砂災害警戒区域などが多く指定されている北部地域では、土砂災害などが発生した場合の避難行動など、他地域と異なる意識や知識が必要です。早期避難の必要性や危険箇所等を広く知ってもらい、土砂災害に対する意識や知識を高めるとともに、災害時により実践的に行動できるためのマニュアル作成や避難訓練等の実施が重要になってきます。それら地域特性を踏まえた安全・安心なまちづくりの取り組みをすすめます。



土砂災害避難マップづくり(菊水校区防災福祉コミュニティ)

取組アイデア

- *地域住民の避難推奨ルートや日頃の心構えをまとめた「土砂災害マップ」の作成
- *土砂災害を想定した避難訓練等の実施による防災意識づくり など

取組アイデア

- *1・2に共通する危機管理意識+災害時要援護者対策としての取組アイデア
- *災害時要援護者支援に取り組む地域団体の拡大(市と支援に関する協定を締結→要援護者台帳を提供)
- *要援護者支援を盛り込んだ防災訓練等の取り組みを支援
- *「要援護者支援団体活動補助金」を活用した支援
- *要援護者支援を含めた災害時の初動マニュアルとしての「地域おたすけガイド」の作成 など



要援護者避難訓練(湊山地区防災福祉コミュニティ)

1. 津波災害に備えた実践的なまちづくり



和田岬校区防災福祉コミュニティ 総合防災訓練

<津波災害対策>

東日本大震災を経て設定された南海トラフ巨大地震発生時の被害想定では、南部地域の大半が津波によって浸水するとされており、神戸市では、防潮堤の補強等、津波災害対策をすすめています。さらに兵庫区では、地震津波防災マニュアルの作成等これまでの取り組み成果を活用し、災害時により実践的に行動できるためのマニュアル作成や避難訓練等の実施を通じ、津波への備えある安全・安心なまちづくりの取り組みをすすめます。

取組アイデア

- *地域の实情に合った避難訓練の実施等による防災意識づくり など



第6分団

災害対策の技能を身につけ、「自助」を促す役割を。

神戸市兵庫消防団 第6分団部長 道林幸次さん

日頃の活動は、「消火」「救助」「救急」と、3つの分野の訓練が中心です。地域の防災活動の主役は防災福祉コミュニティですから、私たちはそれに側面から支援するスタイル。地域の防災活動の中核団体になるのではなく、地域の方が自分たちで行動

できるように牽引し、啓発する。そうした意味で、自助と共助、公助をつなぐ役割が大きいと感じています。いつでも出動できるように訓練で技能を身につけていますが、その技能が無駄になるのがいちばん! 僕らは「出動しない」のが何よりなんですから。

